

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000314		
法人名	社会福祉法人 きたの愛光会		
事業所名	グループホーム秋桜		
所在地	北見市北光296番地7号		
自己評価作成日	平成25年6月8日	評価結果市町村受理日	平成25年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご協力を頂き、盆踊りや合同誕生会を一緒に行ったり交流を深めております。今後もこれらの活動を大切に、継続し、地域にしっかり根付いたグループホームになるよう努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL /index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0175000314-0

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に、どこか懐かしさを感じさせる佇まいで、1ユニット9名で運営されています。敷地は広く、大きな畑を有し、地域住民の協力を得て、畑作りや草取りが行われ、町内の盆踊りには開催場所を提供しています。老人クラブや、保育園との交流等、相互交流に努め、地域にだけ込み、地域の中で利用者を支える取り組みを行うと共に、災害時の協力関係も築かれて、避難訓練への参加や連絡網の整備もされています。理念の“ゆっくり ゆったり”は職員に浸透し、利用者の尊厳を尊重しながら寄り添う介護の実践に取り組んでいます。また利用者の残存能力を維持し、その人らしく暮らす事を目指した個別ケアに努めています。母体法人は市内で数ヶ所の福祉事業を行っており、代表者、管理者は母体法人と連携し、職員教育や資格取得支援に努め、更なるサービス向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践を目標にして取り組んでおります。理念をいつでも見えるところに、掲示しております。	理念を玄関、事務所に掲示すると共にミーティングで確認し“ゆっくり ゆったり”の理念に込められた意味合いの浸透を図りながら、利用者の尊厳を尊重した利用者本位の介護の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に交流できるように、春から夏にかけては外にて日光浴をする時間を設けております。その際に、近所の方と話したり、お互い畑で取れた物などをやり取りしたり、顔を合わせるたびにあいさつをさせて頂いているおかげで、協力者が増え周辺の整備や畑の仕事、花壇などの作成など数多くの事を近所の方が、行ったださっております。	地域住民と協力して畑作りや花壇作りを行ったり、地域行事への参加、事業所敷地で地域の盆踊りを開催、災害の協力関係を構築する等、日常的に交流に努め良好な関係を築き、地域の一員として地域の中で利用者を支える取り組みに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事も花見、合同誕生会、盆踊り、避難訓練、北光保育園の行事にも参加させていただいており、その際に、保育園の職員さんや近所の方に、会話の中で認知症について話をさせて頂いたり相談を受けるなど行わせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を実施しております。必ず実施する事が出来ました。話が一方的になってしまう事が多くなってしまっていますが、出た意見はすぐ取り組めるよう努めております。	2か月に一度、利用者家族、町内会長、民生委員、老人クラブ代表、地域包括支援センター職員等を構成員として開催し、状況報告や質疑応答が行われ、サービスに反映されています。議事録は家族に配布され情報を共有し、理解を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修・会議に(積極的に)参加すると共に、必要に応じ市と連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでおります。	行政とは常に連携を図りながら、主催する会議や研修会に参加すると共に、情報交換に努め、相談やアドバイスをサービスの質の向上に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内・法人外の、身体拘束の研修に(必要に応じて)参加し研鑽を積み、法人の身体拘束の指針を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	法人が開催する研修に参加し、法人の指針を理解すると共に、更にミーティングで再確認しながら利用者の尊厳を尊重した介護に努めています。気になる言葉使い等があった時は職員同士互いに注意し合える良好な関係を築いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員一人一人が虐待に対する関心は高く、不定期ではありますが、月のミーティング等で、全員で学ぶ機会をもうけ虐待を起さないよう注意を払い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などに(積極的に)参加すると共に、職員が必要について理解をし必要な人が出来た場合、制度を活用できるよう取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族が、十分に理解・納得できるように親切・丁寧の一つ一つ契約書を確認しながら説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者が、意見、不満、苦情を話せる環境を整えるとともに、利用者については、常に状況を観察し表情態度から読み取ると共にそれらを、運営に出来るだけ反映させるようにしております。契約者様については、契約時に重要事項説明書にて説明を行い、意見箱も設置しております。玄関にポスターや掲示物により周知できるようにしております。また、家族会を通じても意見を反映することが出来るようにしております。	年二回家族会を開催し、利用者と家族が楽しい時を過ごせる様に配慮しています。意見箱を設置すると共に、ポスターで意見表出を促し、面会時や通院時等報告を密に行い、何でも話して頂ける関係作りに努めています。寄せられた意見、要望は運営に反映する様、努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が運営に関し意見や提案を行える場として、月一回のミーティングを開催しており出された意見等については、出来るだけ反映できるように努めています。母体施設の施設部門係長・計画作成主任にも参加頂きその都度意見をいただいております。	代表者、管理者はミーティングや日常業務時に職員の意見や提案を聞き取る様努め、運営に反映させています。職員の資質向上とサービス向上の為に、法人主催の研修会や外部研修参加を促し、資格取得支援に取り組んでいます。	外部評価に伴った自己評価の取り組みを職員と共に進める工夫や運営に際し更なる職員参加の機会を検討していく事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、将来に向けて向上心を持って、働き続ける環境を整えるためテーマを設定し学習するとともに、本人にとって必要な資格取得について認識をもらい母体施設で行っている試験に向けての自主的な学習会に出来るだけ参加しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成については、個々の段階に応じ研修を法人内部で実施しております。また外部研修も参加できる機会を確保しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上に努めていますが、他のグループホームとの職員の交流や事例等交えた意見交換等は、協議会の集まり等に参加し出来るだけ多くの他グループホームの職員と交流できるようにしております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に聞き取りを行いそれに基づいて、寄り添う事からはじめ、話を傾聴し面談の中から本人の思いや不安を少しでも引き出せるように、出来るだけ早期に信頼関係が、構築できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との信頼関係の構築のうえに、サービスを利用するに至るまで家族の思いや不安に対しても十分傾聴し、受け止めるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を傾聴し適切なサービスの利用に結びつくよう支援すると共に、必要に応じてその地域を担当している居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへ相談する等連携を図っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うことを大切にしお互いに学んだり支えあい、信頼関係を構築するように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の行事等(焼肉・クリスマス会)を通じ交流するとともに、利用者の通院などの利用に際しても都度連絡をしたり一緒に同行して頂いたり御家族と一緒に本人を支える関係を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れている病院・店などは出来るだけ行けるように支援しております。面会なども制限していないため余程の事がない限り どのたでも尋ねてきた人は、お通しております。	利用者の馴染みの人や、場所、習慣等、これまでの関係継続の支援に努めています。友人が訪ねて来たときには歓迎し、喜びを伝えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋に引きこもらないように、個人の嗜好に合わせて居間で歌・体操・読み聞かせ・ゲームなど行い出来るだけ皆さんと一緒に行動できるようにしております。なかなか会話にならない人などは、会話の仲介を行ったり話題を提供することにより少しでも関わりが持てるようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方で、次の入所施設が決まるまで、郵便物などの管理を行ったり面会に、訪れるなど関係を継続するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングなどで話し合い、できるだけ本人の意向に近づけるように努力しております。	管理者、職員は日常の関わりや会話の中で、利用者の思いや、希望の把握に努め、ミーティングで共有し、実現に向け本人本位の検討に努めています。毎朝、パン食の利用者には希望メニューで対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・担当の居宅支援事業所、包括支援センター、家族より聴き取りを行い出来るだけなじみの暮らしが出来るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の行動や会話の中からその人の置かれている状況を的確に把握するように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で、話し合ったもので原案を作り、本人・家族などと話し合い、介護計画にそれぞれ意見が反映されるよう努めております。	家族の訪問時を利用して、又、ケアマネージャーが自宅を訪問して、家族の意向を確認しながら、利用者に関わる関係者の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。介護計画は毎日、チェック表で実施を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・生活記録簿などを利用し情報を共有しながら実践や介護計画見直しに活かしていますが、まだまだ情報量が不十分な個所があるので少しずつでも改善できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人では入所施設・居宅サービスを実施しており、その機能を活かして、必要に応じて支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の行事・近所の方の畑、草刈などのボランティア、お互い取れたものや頂き物のやり取り、年2回の避難訓練（消防より2名参加）、運営推進会議に参加している民生委員・町内会役員などの協力をもらい支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を尊重し、以前通院していた病院で受診できるようかかりつけ医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援しております。	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し、継続した支援に取り組んでおり、受診は事業所が対応し、状況に応じて家族の同行を得ています。受診結果はその都度家族に伝え情報共有を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や法人内の看護師の協力を得ながら、日常の健康管理や医療の支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、定期的にお見舞いに行きその都度状況を聞いております。病院側からも分からないことは、電話や訪問時に相談され連携は十分は図れております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針、看取りに関する指針を設け、ご家族にも説明を行い同意を得ております。	重度化や終末期については指針を整備し、利用契約時に利用者、家族に説明を行い同意書を交わしています。職員は利用者の状態変化時は現状を踏まえた話し合いを行い、利用者、家族の思いに添った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員消防が行っている普通救命講習を受講しており、年2回の定期的な防災会議を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の職員立会いのもと避難訓練を行っており、注意事項などその都度教えていただいております。そのうち1回は運営推進会議に出席していただき地域の皆さんを交え防火について学んでおります。避難訓練には、近所の方、ご家族、民生委員、町内会長、老人クラブ会長、地域包括支援センターの方に参加をさせていただいており、緊急時の協力をお願いしております。	消防の協力を経て、年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、消防職員からのアドバイスを受け、次回に繋げています。緊急通報装置には近隣住民の登録も得られており、避難場所や住民の役割も明確になっています。又、年2回、非常灯、消火器、各居室のコンセント等の自主点検を行い安全を確認しています。	離施設時の搜索マニュアルを作成しています。今後も火災以外の災害、事故の対応について職員への周知徹底を図り、災害対策の更なる構築を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉かけやプライバシーを尊重した対応をし、個人情報の保護にも配慮しております。	利用者の尊厳やプライバシー確保についてはミーティング時や日常業務の中で話し合い、利用者の呼び方や声かけなど言動に注意し、配慮するよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人の意向を尊重し出来るだけ自分で決めたり、納得しながら安心して暮らせるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を傾聴し、できるだけ希望に添うように配慮しております。また表出できない方については、本人のペースに合わせ、ゆっくりゆったりと行動していただけるように配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店等なじみの店に出かけることができるようにしています。行事等に参加するときは、本人の好みに合わせ、その場に合った服を着ることができるよう配慮しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好・状態に合わせて別メニューにしたり、食事を楽しんで頂けるように、能力に応じて食事の介助を行ったり。残存機能に応じて調理・下膳・茶碗洗いなど手伝って頂いております。	献立は母体管理栄養士が作成した食事で、日曜日の昼食は利用者と相談しながら決めています。おしぼりたたみ等、できることを役割としている利用者もおり張り合いや自信に繋がっています。又、口の体操を行い唾液の分泌を良くするなど美味しく食べられる工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を作り管理しております。食事も個人にあった形態で、提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の状態に合わせて介助しています。口腔ケア時に口腔内、舌のマッサージ等も行ってあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人にあった時間に誘導を行っております。トイレに行きたいという排泄サインを見逃さないように支援しております。	排泄チェック表を通して排泄パターンを把握し、利用者の状況や体調に応じた適切な声かけ、トイレでの排泄ができるよう支援しています。又、夜間居室でポータブルトイレの使用など利用者にあった支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの医師への相談、法人内の栄養士からの指導、便通の良くなる食品の使用、訪問看護への相談、運動によりできるだけ自然に、出るように配慮しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めておりますが、本人の希望を聞いていないとほとんどの方が、入浴したくないと話があるため入浴日には、出来るだけ入っていただけるようにしております。入りたい希望があれば、随時対応しております。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調や希望に添って支援しています。入浴が難しい場合には無理強いせずに柔軟な対応に努め、利用者の状況に応じて2人介助で取り組み、安全性に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の対応を行うことにより、居心地が良いように配慮しております。疲れやすい方には昼寝を促すなど配慮、対応行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のファイルに薬の一覧表を、つけて周知徹底をしています。疑問があれば直ぐに確認できるようにしている事と、服薬時には2名でチェックを行っており誤薬を防止しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かして、役割を担ってもらうなど個々に出来ることなど、なるべくやっていただいております。個人の好きなことなども尊重し行えるように配慮しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外にて日光浴を行い皆でお茶を飲んだりお菓子を食べたりされております。買い物・ドライブ・散歩など随時行っております。	日常的な散歩等に限らず利用者の希望、健康状態に配慮できる限り外出するよう心がけており、保育園、老人クラブでの誕生会や網走の水芭蕉を見に行くなど、外出を楽しんで貰えるよう取り組んでいます。外出時は必ず家族の了承を得て出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて所持して頂いております。必要なものが、あれば一緒に買い物へ出かけるなどの対応行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける介助を行っております。手紙の投函などは、書く人がいない為、実施しておりませんが、支援いたします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の生活感が出るように、食器棚、時計等配置しております。不快な光、音などには十分配慮しております。	共有空間は広々とした造りになっており、利用者が集う食堂兼居間には居心地に配慮したテーブル、ソファの配置や生活感、季節感を感じさせる飾り付けを行い、家庭的な雰囲気を大切にしています。又、温度や湿度にも注意を払っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が広い為、一人になれたり、集うことが出来るよう、1人掛け、2～3人掛けのソファを設置しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で心地よく過ごせるように、自分が使い慣れた物を配置できるよう配慮しております。	居室には利用者の使い慣れたベッド、タンス、鏡台等の家具や家族の写真などが飾られ、居心地良く生活できるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要各所には手すりの設置、スペースが広い為、車椅子の自走も各人出来る事が出来、安全に残存機能をいかせるよう配慮しており、一人一人の理解力にあわせ混乱を招かないように、配慮し安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう配慮しております。		